



純民間の受注拡大に注力

現在の状況を天気で表すと、経営状況は悪くないものの先行きが見通せないことから「くもり」と評価する。

2021年3月期の業績は、期初に抱えていた繰越工事が20年3月期よりも多く、加えて官庁工事を多く受注できたことで、第2四半期までは好調に推移している。製造・販売事業についても、原油価格の安定など

の恩恵を受けて計画値以上の数値を確保している。

豊富な手持工事を消化していかための体制づくりについては、仕事のある所への職員の移動を本社から適宜差配し、支店単位では協力会と連携することによって最適化に努めている。

新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、「こうした状況下ではまずは手持工事を持たな

型コロナの影響は継続するだろうが、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が決定され、道路の老朽化対策についても打ち出されているの

で、官庁工事は一定量の発注が見込めるだろうと語る。また、グラウンドや競持場のようなスポーツ関連施設や自動車関連、流通施設などの純民間工事の受注拡大を注力分野に挙げ、官庁

と純民間の直接受注で手持工事をしつかり確保していくことを目指す。

と不安だが、十分に確保することができている。現場もストップせずに順調に動いていることには感謝している」と述べ、

期末に向けて好調を維持したまま22年3月期の繰越工事を確保することに注力する姿勢だ。22年3月期については、「新

と純民間の直接受注で手持工事をしつかり確保していくことを目指す。

スポーツ関連では、自社で開発した衝撃吸収と蹴り出しの強さを併せ持つウォーキングやランニングに適した走路工法「快適歩走」なども積極的に提案し

ていく。

22年3月期は5カ年の現中期経営計画の3年目、折り返し地点を迎える。「2年目の現時点までは概ね順調に進行している」と話し、引き続き計画で掲げる経営課題に取り組みしていく。

特に働き方改革には注力する必要があるとの認識を示し、24年の法規制に先駆けた4週8休の達成や夜間工事の削減などをより推進していく。長時間労働の削減に向けては、デスクワークやIT機器の活用などによって改善が進んでいる。

採用活動では、大卒の技術者の採用に課題があると、採用活動に向けた営業を充実させるために専属の社員を充てる考えを示したほか、20年3月期に設けられたルーター制度などの取り組みも加速させる。

